

和國の國際聯盟加入並に我が日本勞働組合會議の献身的努力を以て亞細亞勞働會議の結成を見たることは勞働階級の國際協力の顯れとして特に注目すべきことである。

二 かくる國際情勢下に於いて、世界資本主義の一環をなす我國の國內産業は獨りインフレーション政策と圓價の暴落に依り、軍需工業と輸出産業を中心に多少の安定を回復したかに見られてゐるが、現今の我國の景氣は軍需インフレーションにその主体を置くものであつて、この景氣は、所謂一九三五、六年の國際危機を目標に政府當局が殆ど無制限に公債を亂發し借金を以て無理矢理に國民の犠牲の上に築き上げた一時的な跛行的人造景氣であつて、當然、一九三五、六年の國際危機が政治的、外交的手段に依つて解消されると同時に、消滅、霧散すべき空景氣である。

特に我國國內産業の大動脈をなす北九州の重工業地帯並に筑豊炭田地方はこの軍需インフレーションの波に躍り上つて、その景氣は今や最高潮に達し、資本家の利潤は急角度に増大されてゐるが、インフレーションに依る物價の暴騰で勞働階級の實質賃金は却つて低下の一路を辿らされてゐる。尤も、軍需關係の産業部門にある勞働賃金は稍々増加してゐるが、これは強制的な残業、夜業などの勞働強化、勞働時間の延長に依る増收であつて、勞働階級の家庭生活とその健康の犠牲を以て購われたものに過ぎず、インフレーションの利潤は資本家のみに獨占され、勞働階級に對する余惠は皆無にして寧ろインフレーションのため物價は暴騰し、勞働階級の生活苦は益々加重されるのみである。勞働階級の生活苦の不憚、不平は利権に擴大、深刻化して、勞働階級の憤激は將に爆發點に達してゐるが、勞働階級の純情、無邪、素朴に裏に、愛國の誇りを背景として、非常時局の空名を以て現實をカムフラージし勞働階級の激發を辛うじて阻止してゐるに過ぎず、インフレーションに依る我國國內産業の多少の安定は極めて不安なジメーした陰鬱なものと言はざるを得ぬ。所謂一九三五、六年の國際危機と稱するものは明年のロンドン海軍縮會議を通じ政治的外交手段を以て解決、解消さるべきものであるが、これと同時に軍需インフレーションの人造景氣は必然に行き詰り、それに依つて惹き起される我國國內産業の萎微、恐慌の大嵐こそ眞に勞働階級の非常時にして、この重大危機は一日の躊躇もなく刻々に勞働階級の全面へ迫りつゝある。

三 かくる情勢に直面して日本勞働組合會議は健實なる勞働組合主義を昂揚して、その内部の充實強化と相俟つて社會的信頼を

増大し、昨年末には我國國內産業を健全に再建、維持、發展させ、復雜困難なる勞資關係を融和、解決、統一して、國家産業に平和を確立する方針として「産業と勞働の統制」に關し政府へ重大なる建議を要請し、政府要路の大意、政黨の領袖、學者専門家、代表的資本家、勞働組合代表等百數十の朝野の權威者を招待して、この建議に關する懇談會を主催した。九州地方協議會も勞資懇談會の全國的普及の導因を作つた福岡縣の勞資懇談會に参加して賞讃の成功を収め、全國に魁けて開催された福岡の勞資懇談會も既に回を重ねること四回、全國の危惧と把憂を裏切つて、その異常なる成功は、回を追ふ毎に會議を益々盛會にしその規模を擴大して勞資懇談會の意義は益々深刻化した。内務省社會局がこの種の勞資懇談會を通じて復雜、困難なる勞資問題並に産業と勞働の關係を統制、指導する國策としての規準を作り出すために、積極的に勞資懇談會を統轄、指導する費用を明年度の豫算に計上するに至つたのは健實なる勞働組合主義が社會的な信任を増大した實証である。

更らに九州地方協議會は日本商品ソシヤル、ダンピング問題に關し眞先きに意見書を公開して、健實なる勞働組合の我國國內産業に對する態度を明示し、第十八回國際勞働會議の政府代表、資本家代表、勞働代表へこの意見書を手交し、全産聯團體保險反對に就いては本部の指示に従ひ積極的に全國運動の一翼に参加して、強力に國營保險の實施を要求し、簡易保險低額診療を小倉、門司、戸畑の醫師會が拒絶するや、直ちにこれか對策を樹立し、濱田議長、松岡副議長の西下を機しては中央情勢に關する座談會を開催した。その他、國際勞働總會代表一行の歡送迎、メーデー等の年中行事は素より、製鋼勞働小倉支部消費組合の産業組合法適用公認、製鋼小倉勞働會館の建設、セメント勞働組合門司支部日本製鐵従業員組合の飛躍的發展等を通じて九州地方協議會加盟團體の融和、親睦、連絡は益々緊密にして、勞働組合の平和的、建設的職責に重点を置き、健實なる勞働組合主義の社會的信頼と徹底に主力を注ぎ、輕佻浮薄にして無責任極る徒輩の極左、極右の思想的運動の實體を九州の全戦線から總退却させ、健實なる勞働組合こそ眞に國家産業の再建、維持、發展に協力し、勞働階級の生活權を確立する實力を持つものであることを實踐の上に於て示し、以て、最も困難なる九州の戦線に健實なる勞働組合主義の大旗を押し立て、堂々と前進を續けたのである。